

『修文県志』を新たに編纂した修文県地方志弁公室が、王陽明が竜場（現在の修文県）に貶謫された時に關する読み物として作ったもの。

竜場に貶謫された時の年譜から始まり、竜場での悟り、辺地での講学した書院や教育について、またそこで書いた文や詩、そこで書いた書法（写真）、建てられた建造物等の遺跡の解説書である。

○楊徳俊 編撰、雷華熙 審校 『千古龍岡漫有名一聖地史存』

二〇〇二年九月、清鎮市盤江印刷廠 印刷。A5版、308頁。

前掲書と同じように、竜場における王陽明の詩文の載録と遺跡の解説の後に、後の人の王陽明や竜場に關する詩文が集められている。

日本人のものとして、古くは、三島毅（号中洲）の「竜岡觀月」の詩があり、他に岡田武彦の「竜場陽明銅像落成記」「王文成公像贊」「祭陽明王天子文」「雲貴秀地」「竜場悟道」志賀一朗の「王陽明大徹大悟的「竜場」」「竜場」「回顧第二次的故地重游」が収められている。また岡田、志賀、矢崎勝彦氏等の貴州の王陽明國際學術討論会の賀詞や献辞も収められている。

○朱五義編注 『修文陽明洞詩文集注』

一九九九年九月、盤江印刷廠印刷。A5版、172頁。

本書が、前掲の二書のもとになっているようなもので、王陽明の竜場に關する詩文、その後の人の手になる詩文が集められているが、注解がついているところが前掲書と異なる。

○袁仁宗 著 『王陽明』

一九九八年七月、貴州民族出版社刊。A5版、437頁。

本書は、歴史長編小説であつて、學術・研究書ではないが、王陽明の伝記長編小説が出ていたのであげておきたい。

*次のものは、単行本でなく、學術誌（紀要）掲載のものであるが、陽明學研究の基本資料として紹介をしておきたい。

○水野 実・永富青地 著 『陽明先生遺言録』(一)～(五)

（『防衛大学校紀要』第70輯～第74輯（平成七～九年）

佐藤一斎が『伝習録欄外書』で指摘していた『陽明先生遺言録』を、都立中央図書館の「河田文庫」にある一斎本を底本として、東北大学所蔵の「狩野文庫本」と「全書本伝習録」、等との異同を明らかにして、訓読注釈をして、研究に資するよう公刊したものである。

これを完成したあと、研究者の要望に答えて、さらに現代語訳（現代語訳『陽明先生遺言録』(一)～(二)、『防衛大学校紀要』(84)～(86)、前者の(一)～(三)の部分)も進められている。なお前者においては、(二)からは三沢三知夫氏が参加している。

○水野 実・永富青地 著 『陽明兵筈』の基礎的研究

（『人文社会科学研究』第41号～第45号、（平成13年～17年）

本書『陽明兵筈』の訓読と注釈がなされている。

○鄭仁在・黃俊傑編 『韓國江華陽明學研究論集』

二〇〇五年九月、国立台湾大学出版中心刊。A5版、562頁。

— 東亞文明研究叢書(50) —

本書は二〇〇四年一〇月一五日—一六日に行われた「江華陽明學派的定位与現代的意義」をテーマとする國際學術研討会において発